

日本鉄鋼協会記事

第9回理事会 日時：12月18日 16・30 開会。場所：協会会議室。出席者：三島会長ほか20名。

報告事項 I. 第9回企画委員会に関する件。II. 第8回研究委員会に関する件。III. 第3回資料委員会に関する件。IV. 第2回鉄鋼生産設備能力調査委員会に関する件。V. 第1回特別資金運営委員会に関する件。VI. 鉄鋼基礎共同研究打合会に関する件。VII. 国内炭コークス化試験に関する件。VIII. 第4回東洋レーヨン科学技術賞候補者および科学技術研究助成金候補者推薦に関する件。IX. 第67回および第68回講演大会に関する件。

協議事項 I. 昭和39年度事業計画および予算編成準備について。II. 次期役員候補者選考委員委嘱の件。III. 次期受賞候補者選考委員委嘱の件。IV. 11月中入退会その他会員異動に関する件。V. 11月中収支決算に関する件。

第10回編集委員会 日時：12月21日 10・00 開会。場所：協会会議室。出席者：佐藤理事ほか22名。

報告事項 I. 会誌号数変更について。II. 会誌第12号(11月号)の完成並びに第13号(12月号)および14号(臨時増刊号)の完成予定について。III. 第50年第1号に特別講演追加掲載について。IV. 依頼論文について。

協議事項 I. 第67回講演大会講演論文原稿の審査。II. 第67回講演大会講演プログラムの編成。III. 会誌改善小委員会について。IV. 索引小委員会について。V. 50周年記念事業準備委員会について。VI. パネル討論会原稿について。VII. 共同研究会報告書の審査について。VIII. 会誌第50年各号随想執筆依頼について。IX. 抄録について。X. 書評依頼について。XI. 寄稿論文の審査。

第11回編集委員会 日時：1月8日 17・00 開会。場所：協会会議室。出席者：佐藤理事ほか20名。

報告事項 I. 会誌第13号(12月号)の完成について。II. 第14号(帯鋼分科会報告書)および第50年第1号(1月号)完成予定について。

協議事項 I. 学術振興会年間報告記事について。II. 第67回講演大会について。III. 褒賞候補論文推薦について。IV. 50周年記念事業準備委員会について。V. 寄稿論文の審査。

第9回企画委員会 日時：12月10日 17・00 開会。場所：協会会議室。出席者：伊木副会長ほか17名。

報告事項 I. 第4回東洋レーヨン科学技術賞候補者および科学技術助成金候補者推薦書提出の件。II. 国内炭コークス化試験打合会に関する件。III. 鉄鋼基礎共同研究打合会に関する件。IV. クリープ試験研究組合に関する件。

協議事項 I. 昭和39年度事業計画および予算編成準備について。II. インド金属学会冶金廃棄物の利用に関するシンポジウム出席者に関する件。

第10回企画委員会 日時：1月10日 17・00 開会。場所：協会会議室。出席者：伊木副会長ほか16名。

報告事項 I. 国内一般炭コークス化試験に関する件。II. 鉄鋼基礎共同研究打合会に関する件。III. 50周年記念事業準備委員会に関する件。IV. クリープ試験研究組合に関する件。

協議事項 I. Bain 博士特別講演会開催に関する件。II. 土木学会吉田賞および吉田研究奨励金候補推薦の件。III. 北海道支部規則改正に関する件。IV. 第7回自動制御連合会講演会に参加または共同主催の件。V. 昭和39年度事業計画案および予算案編成について。

第9回研究委員会 日時：12月13日 16・00 開会。場所：協会会議室。出席者：村田理事ほか15名。

議題 I. 関連学協会との共同研究の準備について。II. 学術振興会との懇談会について。III. 鉄鋼基礎研究に関するアンケート回答について。IV. 鉄鋼設備技術共同研究体制について。V. 第67回講演大会のパネル討論会について。VI. 鉄鋼基礎共同研究会(金属学会, 学振, 協会)について。VII. 国内一般炭利用に関する打合せについて。VIII. 昭和39年度研究計画について。

評議員死去 本会評議員菊田多利男氏(日立金属工業株式会社顧問・元株式会社日立製作所常務取締役)は予て病氣療養中のところさる38年12月17日死去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

石原研究奨励金受贈者決定 昭和38年度石原研究奨励金の受贈者は多数の推薦候補者の中から、特別資金運営委員会および理事会の審議を経て次の通り決定それぞれ奨励金を贈呈した。

1. 還元条件における酸化鉄よりの溶銹生成過程に関する研究。

奨励金35万円 東京大学教授 松下 幸 雄

2. ウラン鋼に関する研究。

奨励金20万円 早稲田大学教授 長谷川 正 義

3. 超高純度鉄および鉄合金の脆性の原子力論的研究。

奨励金15万円 {日本学術振興会第129委員会 吉 識 正 夫
{同上Aグループ世話人 作 井 誠 太

支部記事

北海道支部

秋季講演会 38年11月8, 9日の両日札幌市北海道大学において日本金属学会北海道支部と合同で開催した秋季講演会(既報)で行なわれた一般講演次の通り。

- | | | |
|--|-----------------|----------------|
| 1. Sic 焼結体の溶銑中への溶解について | (○印 講演者) | 名古屋工試○箕輪 晋 |
| 2. ダクタイル鋳物に及ぼす肉厚の影響 | 日鋼 中川義隆○古沢 実 | 富士鉄 ○萩原友郎・沢井 巖 |
| 3. 高炉装入物の通気度試験について | 名古屋工試 小坂岑雄・箕輪 晋 | 北大工○松原 嘉市 |
| 4. 鉄鋼材料の溶融 Zn 中への溶解速度 | 日鋼 ○石塚 寛・大西敬三 | 富士鉄 ○斎藤 力・三国 修 |
| 5. 鋼中硫化物の固定と硫化物周囲の元素濃度分布について | 富士鉄 小野修二郎○佐藤 寛 | |
| 6. 高張力鋼の硫化物腐食割れ防止について | 日鋼 中川義隆○岩田健宏 | 日鋼 熊田 有宏 |
| 7. ピックルポテンシャル法による鋼材スケールの酸洗性の測定 | 日鋼 ○荒木田豊・堀 清 | 北大工 西成 基○品田与志榮 |
| 8. アルミキルド鋼板の組織と加工性について | | |
| 9. アルミニウムおよびバナジウムと窒素とによる鋼の結晶粒度調整に関する研究 | | |
| 10. Cr-Mo-V 鋼の結晶粒度とクリープ破断強度について | | |
| 11. 補強ロール材の転動疲労試験について | | |
| 12. アルミニウムのガスについて | | |

新入会会員氏名

(昭和38年11月1日~11月30日)

正 会 員		新 入 会 員	
伊藤 大	川崎製鉄(株)	矢野 山	山陽特殊製鋼(株)
藤石 山	千葉製鉄所	山中 井	〃
新昌 英	〃	岩下 国	日本金属工業(株)相模原工場
吾右 紀	〃	保谷 泰	〃
嘉夫 士	〃	坪井 太	〃
里村 多計	〃	福井 代	〃
西山 余	〃	未代 要	八幡製鉄(株)
門余 昭	〃	田代 敏	〃 戸畑製造所
柳島 章	〃	重官 本	〃
堀内 章	兵庫工場	上田 野	東京大学生産技術研究所
市川 浩	住友金属工業(株)鋼管製造所	桑野 内	〃
常慶 直	〃	大吉 岡	(株)日立製作所勝田工場
山田 泰	〃	飯吉 富	〃
加藤 一	製鋼所	叶野 元	理研製鋼(株)柿崎工場
成輪 秀	和歌山製鉄所	小島 正	(株)神戸製鋼所
中原 博	住友電気工業(株)	砂本 元	日独重工業(有)
渡辺 寛	〃	田中 良	〃
菊谷 教	富士製鉄(株)釜石製鉄所	五代 友	(株)神戸製鋼所藤沢工場
佐藤 盛	〃	斉藤 武	特殊製鋼(株)川崎工場
長沼 治	〃	坂田 木	九州大学工学部鉄鋼冶金学科
小野 秋	室蘭製鉄所	佐々木 満	八幡製鉄(株)東京研究所
竹本 長	〃	塩田 幸	日本冶金工業(株)金沢工場
山田 光	〃	進藤 三	三菱 TRW(株)
江頭 武	広畑製鉄所	多田 督	住友機械(株)
松田 勝	〃	南雲 山	弥満和精機工業(株)
尾上 紘	日本鋼管(株)水江製鉄所	西田 貴	大谷重工業(株)尼崎工場
梶川 健	〃	福松 川	(株)中山製鋼所名古屋製鋼所
佐藤 代	〃	馬舟 倬	川崎炉材(株)研究所
平井 邦	〃	三浦 幹	東海製鉄(株)
宮本 健	〃		
宮田 聡	技術研究所		

水落安平	(株)不二越富山製鋼工場	藤森寛敏	北海道大学工学部冶金工学科
湯浅泉	外国会員 ミナス製鉄(株)	藤緑川武	〃 〃 〃
赤間東一	学生会員	八木勝美	〃 〃 〃
秋山俊一郎	北海道大学工学部冶金工学科	大坪俊治	九州大学工学部冶金科
油田恒太郎	〃 〃 〃	桑野和矩	〃 〃
石橋健一	〃 〃 〃	岸 昭男	〃 〃
上坂愷一	〃 〃 〃	田村健二	名古屋大学工学部金属学科
大久保智一	〃 〃 〃	堤 正克	〃 〃
郡田和彦	〃 〃 〃	早瀬栄	〃 〃
坂本孝英	〃 〃 〃	鈴木良朋	東北大学工学部金属工学科
佐藤正喜	〃 〃 〃	高木弥	〃 〃
下国伸之	〃 〃 〃	土原峰雄	〃 〃
高橋文夫	〃 〃 〃	峠竹弥	〃 〃
竹下晋一	〃 〃 〃	成田紘一	〃 〃
徳山居礼	〃 〃 〃	星 記男	〃 〃
鳥野皓一郎	〃 〃 〃	村上昌三	〃 〃
中野広重	〃 〃 〃	大西正之	京都大学工学部冶金科
花田裕二	〃 〃 〃	丹羽康夫	〃 〃
		伊藤政彰	千葉工業大学金属工学科
		藤津昭平	東京大学工学部機械工学科
		平井康文	立命館大学理工学部化学科

学 技 術 界 報

内外研究連絡体制検討のためのシンポジウム

—材料および試験に関する国際会議に出席して—

日時・会場：1963年3月13日(金)10時～16時 日本学術会議講堂

主 催：日本学術会議材料試験研究連絡委員会

プ ロ グ ラ ム

開 会 の 辞

委員長 京都大学工学部名誉教授 西原利夫
 東京工業大学教授 末沢慶二
 京都大学工学部教授 平 修
 東北大学金属材料研究所教授 幸田成孝
 東京大学工学部助教授 岸谷孝一
 京都大学工学部教授 堀尾正
 東京大学工学部教授 木原博

- 午前の部 1. 国際クリープ合同会議に出席して
 2. 国際クリープ合同会議に出席して
 3. 組織と性質との国際会議に出席して
 午後の部 4. 熱暑国における建築材料会議に出席して
 5. 第4回国際レオロジー会議
 6. 第4回国際非破壊試験会議

討議 材料および試験に関する国内と国際研究連絡体制のあり方

「材料破壊」国際会議

目的内容：材料の破壊の原子論的機構，微視組織学的機構および連続体力学的機構などの関連性を明らかにし，もつて微視 (Micro) 挙動と巨視 (Macro) 力学的挙動との結びつきを行なうことを目的とする。すなわち，材料破壊機構を統一的に究明するための討論を中心とする。したがって物理的，材料組織学的にあいまいな仮設にもとづく理論や，本目的に直接関連の薄い材料試験的なものや，単なる設計技術のみに関する話題はとり上げない。

日程・場所：昭和40年9月中旬，4日間 仙台

主 催：材料破壊国際会議組織委員会，材料の微視及巨視力学的挙動の統一研究会

後 援：文部省，日本学術会議，その他関連諸学会 (予定)

詳細は随時公示：

連絡先：仙台市桜小路 東北大学工学部 横堀武夫